

平成28年度 施策評価シート

基本目標	安心して暮らせる「すみだ」をつくる	
政策	470	豊かな人間性をもった子どもたちが健やかに育つしくみをつくる
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する
施策の目標	多くの子どもたちが、やさしく温かな家庭で育ち、地域の人々との交流活動を経験し、人間性を学べるように地域と家庭がその役割を果たしています。	

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「家庭での教育を心がけている」区民の割合	%	98.0	97.5				95.9
「地域での子どもの健全育成活動に参加している」区民の割合	%	19.0	18.2				17.0

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
放課後こども教室実施校数	校	11	15	16	16	16
家庭教育学級参加者数	人	478	703	482	764	799
PTA研修大会参加者数	人	456	400	650	700	712

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>保護者、地域の健全育成活動への参加をより一層促進する必要がある。</p> <p>家庭教育について自主的に学ぶ場を支援する家庭教育学級事業に取り組んでおり、27年度は約800人の保護者等が学級に参加するなど、一定の効果がある。しかし、小中学校関係団体の活動が少ないことや活動団体が固定化されていることもあり、関係団体への更なる周知等が必要である。</p> <p>放課後子ども教室は、子どもの参加人数78,146人(前年度72,913人)、見守りボランティアの人数7,852人(前年度7,208人)ともに増加しており、本事業の認知や理解が進んだと考えられるが、実施校数は横ばいである。未実施校について、PTAや地域の協力をどのように得ていくかが課題である。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】
<p>・事務事業における成果指標から、緩やかながらも着実に成果が現れていると判断できるが、基本計画における成果指標は23年度より低下している。このため、現状を維持しつつ、より効果的・効率的な運営を図っていく必要がある。</p>
【今後の具体的な方針】
<p>・保護者、地域の健全育成活動への参加促進や、家庭教育の重要性の啓発を、引き続き行っていく必要がある。</p> <p>・放課後子ども教室は、23年度から「いきいきスクール」に加えて「校庭開放型放課後子ども教室」を実施している。全小学校での実施を目指し、学校や地域と調整のうえ順次開設していく。</p> <p>・「家庭教育学級」については、気軽に相談・申請ができる体制に変更している。また、家庭教育支援講座として、幼稚園・保育園との連携による幼児期の子を持つ保護者を対象とした講座と男性の育児支援を促進するための講座については、開催時期・時間やプログラムに工夫を重ねながら事業を進めていく。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	青少年委員活動事業	生涯学習課	2,841	現状維持	
2	すみだ教室	生涯学習課	7,636	現状維持	
3	サブ・リーダー講習会事業	生涯学習課	1,902	現状維持	
4	少年団体育成	生涯学習課	1,056	現状維持	
5	青少年問題協議会	生涯学習課	593	現状維持	
6	青少年育成委員会	生涯学習課	8,277	現状維持	
7	青少年非行防止運動等事業	生涯学習課	1,337	現状維持	
8	家庭と地域の教育力の充実	生涯学習課	812	現状維持	参加者の増加を図っていく。
9	子どもの110番見舞金制度実施事業	生涯学習課	200	現状維持	
10	わんぱく天国運営事業	生涯学習課	7,030	現状維持	
11	子ども会活性化事業	生涯学習課	1,190	現状維持	
12	放課後子ども教室推進事業	生涯学習課	31,213	拡充	保護者、地域による子どもの体験活動・異年齢交流として充実する。
13	PTA関係事業	生涯学習課	1,049	現状維持	
14	少年少女合唱団事業	生涯学習課	4,675	現状維持	
15	農山村生活体験事業	生涯学習課	1,527	現状維持	
16	教育相談事業	生涯学習課	21,815	現状維持	内容の充実を図っていく。
17	科学教室事業	生涯学習課	1,320	廃止	代替セミナーの展開や学校教育での理科授業の充実を図っていく。

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

事務事業名	青少年委員活動事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	青少年委員活動費		執行実績報告書ページ	187

1 事業の概要

墨田区青少年委員に関する規則 青少年委員は、教育委員会の委嘱を受けて活動しており、地域の青少年団体の活動や指導者を支援したり、青少年の健全育成・余暇指導を行うとともに、青少年教育行政への協力等を行っている。 なお、青少年委員制度は、昭和28年に東京都の制度として発足し、その後、昭和39年の地方自治法の一部改正に伴い区に移管された。	事業開始年度	昭和40年度
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内青少年及び青少年団体					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
青少年を対象としたイベント、青少年団体活動への参加や助言、関係機関との連絡調整等					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
家庭・学校・地域・行政が連携し、区内の青少年や青少年団体が健全に育成され、充実した余暇が過ごせる					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	地域活動	回	目標値	1,200	1,200	1,200
			実績値	1,270	1,210	1,168
活動指標 (手段に対する指標)	協議会活動	回	目標値	1,250	1,250	1,250
			実績値	1,300	1,212	1,169
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
各青少年委員の仕事・家庭環境の状況やイベント・行事日程に重複等があり、地域・協議会活動ともに活動指標は減少傾向ではあるが、大幅な減少ではないため、「学校と地域のパイプ役」として、青少年団体やその関係者が、団体の活動や組織・運営について気軽に指導や助言を受けられるよう機能していると判断できる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	3,054	27年度 歳出決算額	2,841	27年度 執行率	93.0%	28年度 歳出 予算額	3,946
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>区内人口の増加に伴い、青少年の数も増加傾向にあることから、青少年団体等の活動支援や、学校・区・地域との連絡調整等を担う青少年委員の役割は重要度を増しており必要である。 本事業を休止した場合、青少年団体等の活動支援や、学校・区・地域との連絡調整等を担うパイプ役がいなくなり、地域ぐるみでの青少年健全育成環境に影響がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>イベントや行事日程の重複等により、地域・協議会活動ともに若干減少傾向ではあるが、青少年団体等の活動支援や、学校・区・地域との連絡調整等のパイプ役を担っており、一定の効果がある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業はなく統合は困難である。また、受益者に負担を求める事業ではない。 事業経費については、ほぼ横ばい(28年度はブロック幹事区のため予算額増)であり、区内各小学校通学区域ごとに委嘱し、各地域での活動を中心に行っていることから、効率的である。</p>				
(4)現状と課題	<p>青少年委員の活動は、地域の青少年の健全育成、青少年団体の指導者支援等を目的としているが、類似する団体もあり、あまり認知されていない状況にあるため、認知度を高める必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>青少年委員は、青少年団体等の活動支援や指導者の支援、学校・区・地域との調整業務等を担っており、地域人材を活用した有効な取組であることから、引き続き継続することが必要である。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>青少年委員は、青少年の健全育成に関する取組や行政と地域とのパイプ役となる等、重要な役割を担っており、協治の観点からも今後とも継続して実施していく。また、青少年委員活動を広くPRしていくため、小学校PTA会長との懇談会や広報紙の充実を図っていく。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	すみだ教室事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03 - 5608 - 6503
予算書名称	すみだ教室開設費		執行実績報告書ページ	187

1 事業の概要

社会教育法第5条第1号、教育基本法第3条、第12条 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第2条第1項第1号、第77条第1項第1号 義務教育終了後の知的障害者を対象に、社会生活のルールやエチケット等、社会人として必要なことを学ぶ場を提供するとともに、社会見学等のグループ活動や他区との交流、宿泊研修などを行っている。	事業開始年度	昭和39年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
義務教育等を修了した区内在住の知的障がいのある方	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
年齢によって青年部、成人部、壮年部に分かれ、社会見学、スポーツ活動、料理教室等のほか、地元町会との交流会や近隣区との合同レクリエーション大会など、地域の方々や他区受講生との交流活動	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
受講生が社会生活上のルール・エチケットなどを習得し、仲間作りや余暇時間を有効に利用できる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	受講生参加者数	人	目標値	100	100	100
			実績値	101	95	93
成果指標 (目的に対する指標)	年間修了者数 (12回以上の出席者)	人	目標値	90	90	90
			実績値	95	88	87
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
受講生、講師・ボランティアともに参加率は高く、活動も活発に展開されている。年間修了者数も9割を超えており、一定の効果があるものと考えられる。 また、年間スケジュールに基づき、計画どおりに事業が進行している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費
27年度歳出予算額	8,189	27年度歳出決算額	7,636	27年度執行率	93.2%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>受講生の参加人数は毎年ほぼ横ばいであることから、今後も同程度の受講生が参加すると考えられ、地域社会との交流や仲間との協調性等を学ぶ場として必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>年間修了者数は受講生の9割となっており、受講生の参加意欲が高いことが分かるとともに、事業内容に魅力があることが判断できる。 また、スポーツや調理、社会見学等の活動を行うことで、知的障がいのある方に対して、生涯学習の機会を増やすことができる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>受講生の高齢化により、教育的側面より福祉的側面の方が強くなっていることもあり、平成25年度から、対象年齢を65歳以下とした年齢制限を設けたところではあるが、他に生涯学習の場とした類似事業がない。</p>				
(4)現状と課題	<p>受講生、講師・ボランティアともに高齢化が問題となっている。特に受講生については、活動に制限が開始しているクラスがあるほか、余暇的・福祉的側面が強くなってきている。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	毎年、一定程度の参加者があり、他に代替事業がないことから、今後も継続して実施する。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>今後も継続実施していくこととなるが、社会活動訓練等の教育的側面を強化するカリキュラムについて、講師等と検討していく必要がある。</p>		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	サブ・リーダー講習会事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	少年団体指導者講習会及び団体育成経費(サブ・リーダー講習会経費)		執行実績報告書ページ	187

1 事業の概要

社会教育法第5条 小学校高学年を対象に、ゲームやレクリエーション等を通して、自主性・協調性・責任感等を養い、各種グループ活動で中心的な役割を担える人材を育成することを目的に、区内講習会や宿泊講習会を実施している。 当初は区内での日帰り講習のみであったが、昭和63年に野外活動実習(宿泊)を導入。現在は、夏期と冬期の2期制で実施している。	事業開始年度	昭和45年度
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住・在学の小学校4年生から6年生	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
夏期・冬期に参加者を募り、自主性・協調性等を身につけるためのレクリエーションやイニシアチブゲームを主な内容とした講習会	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
子ども会などの少年団体や学校内での団体活動の中で、積極的・中心的な役割を担える児童(イン・リーダー)として活躍している	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	夏期申込み数	人	目標値	64	64	64
			実績値	42	40	48
活動指標 (手段に対する指標)	冬期申込み数	人	目標値	64	64	64
			実績値	61	62	74
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・夏期参加者数については、土曜授業や夏休みの他事業、参加対象者の習い事等の様々な理由から、申込み人数が目標値を下回っている。 ・冬期参加者数については、概ね目標値に近い数値を維持している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	2,132	27年度 歳出決算額	1,902	27年度 執行率	89.2%	28年度 歳出 予算額	2,073
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
小学校高学年を対象とした「リーダー講習会」は他になく、申込み数についても、27年度は増加しており、今後も児童数の増加に伴い増えることが見込まれることから、実施は継続すべきである。 事業を休止した場合、リーダーの育成ができなくなる。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
申込み数について、夏期は目標値を下回っているものの、夏期・冬期ともに増加傾向にある。また、本講習修了生が、子ども会等でのインリーダー的存在として成長していることから、一定の効果があると考えられる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
事業経費は横ばいであり、また、宿泊代等の実費相当分(交通費を除く)を参加者から徴収していることから、どちらかといえば効率的である。				
(4)現状と課題	・事業の目的に即した活動を効果的かつ効率的に行うことができる宿泊講習地の検討。 ・講師、ボランティアスタッフの円滑な確保手段の確立。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	小学校高学年を対象としたリーダー講習会は本事業のみであり、本講習修了生が子ども会等でのインリーダー的存在として成長していること、また、地域団体である青少年委員協議会との協働により実施していることから、現状のまま継続していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後も引き続き継続していくが、宿泊研修の実施場所及び講師確保等については、他の自治体の事例等も参考に検討を重ねていく必要がある。 夏期参加者については、土曜授業や夏休みにおける他事業の実施、参加者の習い事等の理由から、目標値を下回っているため、実施回数・宿泊日数等を検討していく必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	少年団体育成事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	少年団体指導者講習会及び単体育成経費		執行実績報告書ページ	187

1 事業の概要

子ども会の基本的なあり方を研究・協議する機関として「墨田区少年団体連絡協議会」が、昭和40年5月に発足(昭和44年に墨田区少年団体連合会に名称変更)したことを受け、子ども会活動の活性化を図ることを目的として、昭和40年から事業を開始している。 区内の子ども会の連合体である墨田区少年団体連合会への指導助言等を通じ、子ども会活動の活性化を図る。また、当該団体が実施主体となっているジュニア・リーダー研修会に対して支援する。	事業開始年度	昭和40年
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
墨田区少年団体連合会及びジュニア・リーダー(区内在住の中学生・高校生)						に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
継続して専門的・技術的な指導・助言を行い、墨田区少年団体連合会と共催によりジュニア・リーダー研修会を開講し、月例研修、キャンプ事業及び指導実習等						を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
墨田区少年団体連合会の体制が強化され、ジュニア・リーダーが協調性・積極性・責任感を学び、良きお兄さんお姉さんとして活躍できるリーダーを養成することにより、子ども会活動が活発になっている						状態にする。	
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	ジュニア・リーダー派遣回数 (子ども会イベント等への派遣)		回	目標値	25	25	25
				実績値	23	24	25
成果指標 (目的に対する指標)	ジュニア・リーダー研修会参加者数		人	目標値	60	55	55
				実績値	49	51	57
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
中学1年生から高校3年生までの6年間という長期的カリキュラムのため、部活や通塾等の理由により途中辞退する研修生もあり、研修生の減少傾向が見られていたが、研修プログラムの改善を行ったことで、平成25年度を底に回復傾向が続いている。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度歳出予算額	1,285	27年度歳出決算額	1,056	27年度執行率	82.2%	28年度歳出予算額	1,230
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	0
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
ジュニア・リーダーには、子ども会等でのレクリエーション支援活動で活躍が期待されているだけではなく、青少年の健全育成に向けて、子ども達の良きお兄さんお姉さんとして手本となることも期待されている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
子ども会活動の向上を図るためには、墨田区少年団体連合会及びジュニア・リーダーの質の向上が必要であり、本事業はそこに大きく寄与しているといえる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
墨田区少年団体連合会との連携により、効率的に実施している。				
(4)現状と課題	受講生へ事業の趣旨を理解してもらい、地域で活躍できる人材へと育成していく必要がある。また、研修生の減少を防ぐため、プログラムの質の向上を行う必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	ジュニア・リーダー研修会については、墨田区少年団体連合会と共催で実施しており、子ども会を初めとする少年団体の活動で小学生児童の指導にあたる中・高校生のリーダー育成のため、今後も引き続き連携・協力して実施していく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	研修生の増加を図るために、PRやプログラム内容等に工夫を重ねるように墨田区少年団体連合会に指導・助言を行う。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	青少年問題協議会事務		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	青少年問題協議会		執行実績報告書ページ	187

1 事業の概要

地方青少年問題協議会法(昭和28年)の規定に基づき、区長の付属機関として墨田区青少年問題協議会を設置し、青少年関係機関・団体の指針となる「墨田区青少年対策基本方針」を策定している。	事業開始年度	昭和30年度
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
青少年関係機関・団体	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
青少年問題協議会において「墨田区青少年対策基本方針」の策定	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
次代を担う青少年が安全に、そして健全に成長できる育成活動が推進されている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	墨田区青少年対策基本方針の配布数	冊	目標値	500	400	400
			実績値	500	400	400
活動指標 (手段に対する指標)	青少年対策関連事業	事業	目標値	125	125	125
			実績値	129	127	129
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
活動指標は共に横ばいであるが、青少年を取り巻く環境は日々変化しているため、迅速に対応を図る必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	678	27年度 歳出決算額	593	27年度 執行率	87.5%	28年度 歳出 予算額	677
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
青少年の健全育成に関わる団体等が円滑な活動を行う上で、基本方針を定める必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
青少年の健全育成のあり方を協議する場として有効である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
生涯学習課を事務局としており、連絡調整等スムーズに行うことが出来ている。				
(4)現状と課題	「墨田区青少年対策基本方針」の作成に当たり、昨今の青少年を取り巻く環境を十分に調査して適切な対策を盛り込んでいくことが求められる。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区内外の青少年健全育成関係者が一堂に会して、青少年健全育成の基本方針を協議する会議であり、有意義な場であるとともに、効率的に実施されている。
今後の方向性 (見直しの視点)	区長の付属機関として、墨田区の青少年問題に係る基本方針作成の協議の場として、基本的な部分は引き続き継続して実施していく。また、基本方針を区ホームページに掲載するなど、より多くの関係団体や区民に周知を行う。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	青少年育成委員会事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03 - 5608 - 6503
予算書名称	青少年育成委員会		執行実績報告書ページ	188

1 事業の概要

区内中学校の通学区域を単位として設置された各地区育成委員会に対し、補助金の交付や連絡調整を行うことにより、同会の円滑な運営と地域社会における青少年の健全な育成活動を支援している。	事業開始年度	昭和48年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
各地区青少年育成委員会					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
墨田区青少年対策基本方針に基づき、地域の実情に応じた青少年の非行防止・健全育成の施策を実施するための関係機関・団体との連絡・調整					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
青少年の非行を防止し、健全に成長できる育成活動が行われている					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	墨田区青少年育成委員会数		地区	目標値	12	10	10
				実績値	12	10	10
成果指標 (目的に対する指標)	青少年育成委員会年間事業数 (健全育成事業のみ)		数	目標値	40	40	40
				実績値	40	40	40
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
墨田区青少年対策基本方針に基づき、各地区において、地域教育懇談会、有害環境点検・パトロールなど、地域の実情に応じた各種青少年健全育成事業が実施されており、一定の成果があるものと考えられる。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	8,423	27年度 歳出決算額	8,277	27年度 執行率	98.3%	28年度 歳出 予算額	8,629
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区青少年育成委員会補助金					
27年度 実績額	複数あり	28年度 予算額	6,700	対象	各地区青少年育成委員会(平成28年度:10団体)		
開始 年度	昭和48年度	根拠法令	墨田区青少年育成委員会補助金交付要綱				
算定基準	予算の範囲内で区長が定める額			補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
青少年の非行防止等を目的とした巡回パトロールや不良環境箇所パトロールを実施している。 このため、事業を中止した場合、各地区青少年育成委員会の活動が滞り、青少年の健全育成に支障をきたす。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
各地区において、青少年と直接関わる事業や青少年を取り巻く環境に対する事業等に取り組んでおり、有効性は高い。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
区やPTA・小中学校などの関係団体と連携することで、地区の実情を踏まえながら活動ができている。				
(4)現状と課題	平成27年度より、補助金額を見直した上で、墨田区地域体験活動支援事業との統合を図った。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	中学校区を単位に区域内の青少年健全育成活動、防犯活動、体験活動等、様々な行事を展開している。事業の性質上、外部への委託などはできないが、地域の力を活用した有効な事業である。
今後の方向性 (見直しの視点)	各地区における事業が円滑に実施されるとともに、他地区との連携を視野に入れた指導や助言を行う。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	青少年非行防止運動等事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	青少年非行防止運動等経費		執行実績報告書ページ	188

1 事業の概要

青少年の非行・被害防止全国強調月間(7月)、子ども・若者育成支援強調月間(11月)等を設定し、一般区民の理解と協力を得るための啓発運動を展開している。	事業開始年度	昭和59年
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
青少年(小・中学生)					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
社会を明るくする運動や青少年健全育成作文コンクール等					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
次代を担う青少年が安全に、健全に成長できる					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	社会を明るくする運動作文コンテスト応募者数		人	目標値			
				実績値	54	38	40
活動指標 (手段に対する指標)	青少年健全育成作文コンクール応募者数		人	目標値			
				実績値	7,633	7,830	8,022
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
・社会を明るくする運動作文コンテスト応募者数は前年度並みであるが、応募している学校に偏りがあるため、小・中学校への周知方法等の改善が必要であると考えられる。 ・青少年健全育成作文コンクールは、区内全小中学校から応募があり、応募者数も増加していることから本活動の趣旨が広く周知されているものと分析できる。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	1,435	27年度 歳出決算額	1,337	27年度 執行率	93.2%	28年度 歳出 予算額	1,254
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		非行のない明るい街づくり連絡協議会補助金					
27年度 実績額	249	28年度 予算額	260	対象	非行のない明るい街づくり本所・向島連絡協議会		
開始 年度	平成18年度	根拠法令	非行のない明るい街づくり連絡協議会補助金交付要綱				
算定基準	予算の範囲内で区長が定める額			補助率	10分の10		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
次代を担う区内青少年の健全育成推進に努める必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
入選作品集を広く青少年関係者に配布しており、青少年の意識や考え方、取り巻く環境を理解するうえで有効的である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
区内児童・生徒や多くの青少年関係団体が関与しており、健全育成に関わる唯一の式典である。				
(4)現状と課題	青少年を取り巻く環境は日々変化しており、予断を許さない状況もあるため、青少年の非行防止、健全育成推進の観点から、今後も広く青少年への普及啓発に取り組んでいく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	青少年の非行防止ならびに健全育成を推進するには、保護司会や育成委員会、学校等の地域と行政が一体となって協働で取り組む必要があり、引き続き取り組むことが妥当である。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後も青少年をはじめとする多くの区民への普及啓発に、継続して取り組んでいく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	家庭と地域の教育力の充実事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	家庭と地域の教育力の充実		執行実績報告書ページ	188

1 事業の概要

【家庭教育学級】 家庭教育支援団体の実施する家庭教育学級について補助金交付を行う。 【地域育成者講習会】 地域における教育力・相談力の向上のため、新しい家庭のあり方等をテーマに、青少年育成委員会委員、青少年委員、PTA等を対象に、講習会を実施。 【家庭教育支援講座】 心身ともに健やかな子どもを育てるために、保護者等が学習する場や子どもと一緒に遊びながら学ぶ場として、講座・講演会等を実施し、家庭教育の振興を図るとともに、地域の教育力の向上を目指す。	事業開始年度	昭和39年度
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		子育て中の保護者及び子育てに関心のある一般区民	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		子どものより良い成長を願って、団体(PTAや父母の会、子育てサークルなど)が実施する家庭教育学習会の開催経費の助成や就学前児童の生活習慣の改善、家庭学習の習慣づけのほか、男性の家庭教育を応援することを目的に、区内幼稚園・保育園と連携し、子育てに役立つ講座等の開催	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		子どもたちが健やかに、そして健全に成長できる環境が整えられている	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	講座・講習会実施数 (家庭教育学級実施数含む)	件	目標値	32	32	30
			実績値	27	27	26
成果指標 (目的に対する指標)	講座・講習会参加者数 (家庭教育学級参加者含む)	人	目標値	1,450	1,350	1,350
			実績値	1,230	1,351	1,346
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
講座・講習会実施数について平成25年度から平成27年度にかけてほぼ横ばいで推移している。 また、1講座当たりの参加者数については微増となっており、事業の継続実施による認知度向上とともに講座への参加者数が増加していると考えられる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	940	27年度 歳出決算額	812	27年度 執行率	86.4%	28年度 歳出 予算額	1,000
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	墨田区家庭教育学級補助金						
27年度 実績額	337	28年度 予算額	435	対象	区内の保育所、幼稚園、小・中学校の父母の会及びPTA、墨田区社会教育関係登録団体、墨田区教育委員会が適当と認める2人以上の団体		
開始 年度	昭和57年度	根拠法令	墨田区家庭教育学級補助金交付要綱				
算定基準				補助率	補助率10分の10、限度額29,000円		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>家庭や地域における教育支援のニーズが高まっている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>講座のテーマ選定により参加者数の増減はあるものの実施手段としては概ね適切であるといえる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>家庭教育支援講座については、関連事業を実施している部署と連携し、より効率的に実施していく必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>参加者の増加を促進するため、幼稚・保育園・学校との連携を強化し、一層の事業推進を図る必要がある。また補助金交付事業について、開催団体の多くは幼稚園・保育園(父母の会)が多く、小学校、中学校関係団体の開催が少ないため、新規の利用団体の増加を図る必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	講座・講習会参加者数(家庭教育学級参加者含む)については、平成25年度から概ね横ばいであるが、ある程度、子育て家庭のニーズに則した講座を開催できていると考えられる。また、家庭教育学級補助金交付事業については地域の自主的な学習ニーズに応える形で支援をしており、地域における子育てコミュニティの向上にも大きく貢献していることから引き続き実施する。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>参加者の増加を促進するために、区民ニーズに合致した講座を開催するとともに、幼稚園・保育園・学校との連携を強化し事業の周知徹底を図っていく。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	子どもの110番見舞金制度実施事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6311
予算書名称	子どもの110番見舞金制度実施経費		執行実績報告書ページ	188

1 事業の概要

子どもたちの登下校時及び下校後の安全確保並びに犯罪の抑止を目的として、すみだこどもの110番シンボルマーク入りのプレートを協力家庭・店舗で掲示している。平成12年度、本所・向島両PTAによる「すみだこどもの110番運営委員会」発足。平成14年度、「すみだこどもの110番協力者等に対する見舞金支給要綱」制定。平成17年度「すみだこどもの110番補助金交付要綱」制定。	事業開始年度	平成12年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
すみだこどもの110番運営委員会(小学校PTAで組織)	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
補助金交付等の支援	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
協力家庭等でステッカーを掲示し、地域における児童の安全確保と犯罪抑止のための対策ができる	状態にする。
目的を達成するための指標	
種類	指標名(指標の説明)
活動指標 (手段に対する指標)	協力家庭数
成果指標 (目的に対する指標)	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)	
PTAを通じて、経年劣化したステッカーの交換を行うだけでなく、新たな協力家庭の拡大に努めている。平成27年度に協力家庭数の件数が減少しているが、調査結果の精査によるものである。	

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費
27年度歳出予算額	400	27年度歳出決算額	200	27年度執行率	50.0%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		400
	無	無	無	有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	すみだこどもの110番補助金					
27年度実績額	200	28年度予算額	200	対象	墨田区立小学校PTA協議会に所属する各校PTA会長をもって構成する運営委員会	
開始年度	平成12年度	根拠法令	すみだこどもの110番補助金交付要綱			
算定基準	運営委員会において、(1)子どもたちの安全確保及び犯罪発生の抑止(2)子どもたちの安全及び防犯に対する住民意識の啓発の目的で行う事業が補助対象となり、その額は、予算の範囲内で区長が定める額とする。			補助率	10分の10	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>昨今の社会情勢を踏まえ、子どもの学校外における安全管理は重要度を増しており、今後もこの傾向は継続されるものと考えられる。子どもの学校外における安全管理は、警察機関等でも行われているが、様々な角度から多くの目で子どもを見守ることが重要であり、当事業は必要であるとする。事業を休止した場合、地域における子どもの安全対策が低下することとなる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>実績値は減少しているが、これは調査結果を精査した結果であり、目標値の9割近い実績値である。これまで、経年劣化したプレートの交換や自転車用防犯ステッカーの作成経費等に充てることが多かったが、この運動を児童に理解させるための施策として、児童向けにわかりやすく説明したクリアファイルを作成し、児童に配布するといった取り組みも行っており、有効に活用できていると考える。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>警察機関において関連する事業が行われているほか、他課においてパトロールなどの事業が行われているが、本事業とは主旨が異なるため、事業の統合はできない。受益者に負担を求める類の事業ではなく、経費も一定であるため、概ね効率的な運営であると判断できる。</p>				
(4)現状と課題	<p>「地域で子どもを守る」という意識の啓発と事業協力者の開拓。学校・児童に対する事業の周知。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	児童が危険に晒された際の避難場所を地域内に展開していくことは、防犯や安全・安心なまちづくりの観点で期待される。
今後の方向性 (見直しの視点)	新たな家庭数を着実に拡大できるよう、今後も引き続きPTAと連携して事業を実施していく。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	わんぱく天国運営事業	所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474 地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6311
予算書名称	わんぱく天国運営費	執行実績報告書ページ	188

1 事業の概要

すみだわんぱく条例、墨田区立公園条例 わんぱく天国は、子どもたちが自然に触れながら、自由にのびのびと創造的・冒険的な遊びができる施設であり、昭和62年4月に開園。年間を通じた開園により、子どもたちが、子ども同士のつながりを深めるとともに、子ども社会のあり方を学ぶ場となっている。 また、季節に応じたイベントを年数回行うことで、都会では味わえない自然体験等を子どもたちに提供している。	事業開始年度	昭和62年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		子どもを中心とした全区民	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		通常開園のほか、四季を通じたイベント(わんぱくこどもフェスティバル・かぶと虫とほたる観賞の夕べ・収穫祭・わんぱく雪まつり等)の開催	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		多くの子どもたちが、自然に触れながら冒険を楽しみ、遊びの中でコミュニケーションが図られている	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	イベント実施日数	日	目標値	11	11	11
			実績値	11	11	11
成果指標 (目的に対する指標)	来園者数(イベントを含む)	人	目標値	34,000	36,000	36,000
			実績値	34,309	35,245	35,775
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
26年度、27年度に関しては、目標値は達成できてはいないが、25年度に比べて実績値は上昇している。イベント実施日数は変わらないため、通常来園者が年々増加していることがうかがえる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	7,368	27年度 歳出決算額	7,030	27年度 執行率	95.4%	28年度 歳出 予算額	7,450
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		わんぱく雪まつり補助金					
27年度 実績額	520	28年度 予算額	520	対象	わんぱく天国実行委員会		
開始 年度	平成18年度	根拠法令	わんぱく天国事業活動補助金交付要綱				
算定基準	わんぱく天国における自然体験活動、農業体験活動、区長が適当と認める事業を対象とし、補助金額は、予算の範囲内において区長が定める。			補助率	対象経費の10分の10		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>東京スカイツリー完成後、他区や他都市からの来場者も含めて入場者数が増加しており、今後もこの傾向は続く予想される。また、わんぱく天国と同様の冒険遊び場は区内、近隣区にはなく、施設自体の重要度が高い。 事業の休止及び中止をした場合、近隣で子どもたちが自然に触れながら、自由にのびのびと創造的・冒険的な遊びをする場所がなくなってしまうことから、本事業は必要であると考え。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>子どもたちが自然に触れながら、自由にのびのびと創造的・冒険的な遊びできる区内唯一の公園であり、開園から30年経過した現在でも入場者数が増加傾向にあるなど、子どもたちや子育て世代の大人からの人気の高さがうかがえることから、一定の効果があると判断できる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連する事業や類似する事業がないため、事業の統合はできない。また、施設の老朽化に伴う補修工事等により経費の増加が見込まれるが、日常の運営やイベントは、地域ボランティアを中心に開催されていることから、効率的に運営されていると判断できる。 なお、受益者負担の観点から、利用料を徴収することについては、子どもたちが自由にのびのびと遊べる場所というコンセプトが崩れかねないため、導入すべきでないと考え。</p>				
(4)現状と課題	<p>施設が老朽化しており、今後も維持補修を行う必要がある。 管理協力ボランティア「プレーリーダー」の人数が不足しており、従事人員の確保が難しい。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>墨田区唯一のプレーパークとしての存在意義は高い。 また、地域ボランティアや地域団体である「すみだ四季友遊会」とともに事業運営をしており、協働の観点からも効果が高い。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>施設の老朽化の部分に関しては、適切に維持補修等を行い、子どもの安全な遊び場として、引き続き事業を実施していく。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 11

作成年月日: 平成28年6月22日

事務事業名	子ども会活性化事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	子ども会活性化事業		執行実績報告書ページ	188

1 事業の概要

平成5年度に子ども会の抱える様々な問題解決と青少年団体を側面から支援し、団体の活性化へつなげるため、「子ども会活性化検討委員会」を設置した。平成17年度に墨田区子ども会活性化事業補助金交付要綱を制定し、平成21年度からは、子ども会活性化イベントとして「ロープジャンプX・墨田区大会」を実施している。平成24年度には、墨田区少年団体連合会事業として実施していたバドミントン大会を子ども会活性化事業として実施している。	事業開始年度	平成5年
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		子ども会活性化事業実行委員会	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		補助金を交付するとともに、育成者研修会、少年キャンプ、ロープジャンプX(大縄跳び)の記録会や大会、バドミントン大会等のイベントへの協力	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		各地域の「子ども会」に多くの子どもが参加し、子ども会の活動が活発になっている	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	子ども会活性化イベント数	回	目標値	3	4	4
			実績値	3	4	4
成果指標 (目的に対する指標)	子ども会活性化イベント参加者数	人	目標値	1,000	1,000	1,000
			実績値	1,005	1,055	1,091
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
イベントへの参加者数は増加しており、ロープジャンプX大会等の関連行事が子ども会等に広く周知され、子ども会活動も活発化しているものと考えられる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度歳出予算額	1,190	27年度歳出決算額	1,190	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	1,090
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	墨田区子ども会活性化事業補助金						
27年度実績額	1190	28年度予算額	1,090	対象	墨田区子ども会活性化事業実行委員会		
開始年度	平成17年度	根拠法令	墨田区子ども会活性化事業補助金交付要綱				
算定基準	各年度の子ども会活性化事業への補助。予算の範囲内において全額補助する。			補助率	10/10		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>子どもの異年齢交流や地域の大人との交流等による青少年健全育成促進のため、子ども会活動の支援が必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>単位子ども会等でロープジャンプXを取り入れるなど事業の波及効果がみられる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>墨田区子ども会活性化事業実行委員会との共催により効率的に事業を実施している。</p>				
(4)現状と課題	<p>子ども会イベントの実施内容が固定化されているため、更に活発な内容とするためには多様なイベントの実施が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>地域で子供を育成する上で、子供会の活性化は重要である。墨田区子ども会活性化事業実行委員会主催の「ロープジャンプX」等のイベントへの参加者数は増加しており、引き続き継続することが妥当である。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>より多くの子ども会関係者や子供たちが参加できるよう、更なるイベント等の充実やPRなど、墨田区子ども会活性化事業実行委員会を支援し、引き続き事業実施していく。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	放課後子ども教室推進事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6311
予算書名称	放課後子ども教室推進事業費		執行実績報告書ページ	189

1 事業の概要

文部科学省及び厚生労働省が推進する「放課後子どもプラン」事業に基づき、平成19年9月に緑小学校で「いきいきスクール」を開設したのを皮切りに、28年3月末現在3校で「いきいきスクール」を実施している。その他の学校では、従来実施している日曜日等の「校庭開放」を平日に拡大する方法で「校庭開放型放課後子ども教室」を順次開設し、28年3月末現在13校で実施している。 26年には、目標値や定義などを明確化した「放課後子ども総合プラン」が策定されたことから、今後は、同プランに基づく共通プログラムの実施も含め、区内全小学校での展開を目指す。	事業開始年度	平成19年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区内小学校区域内児童					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
地域や学校の協力の下、放課後に安全・安心な居場所を確保するとともに多様なプログラム					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
児童が、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行える					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	見守りボランティア人数(延)		人	目標値	7,500	7,500	7,500
				実績値	7,001	7,208	7,852
成果指標 (目的に対する指標)	放課後子ども教室参加児童数(延)		人	目標値	90,000	90,000	90,000
				実績値	75,986	72,913	78,146
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
平成26・27年度は新規開設した学校が無かったが、各校で活動が定着してきて、実績値は平成26年度に比べて上昇している。今後も全校での校庭開放型放課後子ども教室の実施を目指す。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	32,500	27年度 歳出決算額	31,213	27年度 執行率	96.0%	28年度 歳出 予算額	39,159
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区校庭開放事業補助金					
27年度 実績額	2,386	28年度 予算額	2,466	対象	校庭開放運営協議会		
開始 年度	昭和29年度	根拠法令	墨田区校庭開放事業補助金交付要綱				
算定基準	校庭開放指導員謝礼と事務担当者謝礼、運営活動費を対象経費とし、それぞれ上限額を設けている。			補助率	対象経費の10分の10		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>文部科学省及び厚生労働省が推進する「放課後子ども総合プラン」に基づいて行っている事業である。学校・保護者・地域が連携した児童の体験活動・異年齢交流の場として、あるいは、放課後の居場所等として、本事業は重要であると考え。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>27年度は、26年度と比較して参加児童数が増加しており、児童や保護者に対して本事業の認知や理解が進んだと考えられる。各学校の通学区域における地域の人材を中心に運営委員会を組織しており、地域ぐるみで子どもを見守るといった点からも効果的な実施方法であると考え。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>児童館事業や学童クラブ事業との連携により、児童の放課後対策をより効率的に行っていく必要がある。経費の面では、地域の人材を中心に運営委員会を組織していることから、事業者への委託と比較して効率的である。なお、受益者負担を求める類の事業ではないと考える。</p>				
(4)現状と課題	<p>開設に向けて中心的な役割(コーディネーター)を担う人材の不足やスタッフ・ボランティアの確保に課題がある。国が推進する学童保育との一体化や連携のあり方について、他区の状況を踏まえ、検証する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>放課後における児童の安全・安心な居場所づくりとして、事業効果があるとともに、地域住民や保護者等の人材を活用して運営を行うなど、協働の推進の観点からも評価できる。今後も全校での実施と内容の充実を目指し、事業を拡大していく。</p>
今後の方向性(見直しの視点)	<p>放課後子ども教室を全校で実施していくため、民間事業者への委託を含め、実施方法を検討する。類似事業である児童館事業と放課後子ども教室の今後のあり方を子ども課と検討する。効率的な事業運営を図っていくうえで、類似する児童館事業との調整や検討を行っていく必要がある。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	27年第2回定例会「一般質問」ほか	
	要旨	<p>放課後子ども総合プランでは、学童クラブと放課後子ども教室の一体的又は連携した取組を推進しているが、本区の実施状況はどうか。 放課後子ども教室事業の未実施校に対してどのような働きかけを行っているか。</p>	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	PTA関係事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6503
予算書名称	PTA関係経費		執行実績報告書ページ	190

1 事業の概要

PTA協議会及びPTA連合会に対する補助金交付要綱 PTA活動を円滑にしその充実を図るため、PTA連合研修大会やPTA委員研修等実施の援助を行っている。	事業開始年度	昭和37年度以前
	終了予定年度	無

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内小中学校PTA、小学校PTA協議会及び中学校PTA連合会					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
研修大会等の実施を通じて、単位PTA活動や連合PTA活動を充実させるための支援を行うとともに、PTA同士の交流や、教育関係機関との情報交換の場を設けるなどの事業					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
学校と家庭をつなぐPTA活動の充実が図られている					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	PTA研修大会参加者数(延)	人	目標値	450	500	550
			実績値	650	700	712
成果指標 (目的に対する指標)	PTA関係共催・後援事業数	回	目標値	8	8	8
			実績値	8	7	7
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
PTA研修大会参加者数の実績値が目標値を上回っており、増加傾向にあることから、PTAの活動が活発に行われているとともに、PTA活動に対する保護者の関心が高まっていることが推察される。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	1,160	27年度 歳出決算額	1,049	27年度 執行率	90.4%	28年度 歳出 予算額	1,168
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		PTA協議会及びPTA連合会に対する補助金					
27年度 実績額	900	28年度 予算額	900	対象	小学校PTA協議会、中学校PTA連合会		
開始 年度	昭和57年度	根拠法令	PTA協議会及びPTA連合会に対する補助金交付要綱				
算定基準				補助率	対象経費の10分の10(限度額各450,000円)		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
PTA活動は、学校と家庭をつなぐ重要な役割を担っており、その支援は必要である。 事業を休止した場合、PTA活動の低迷を招き、児童・生徒の健全育成環境に影響を及ぼしかねない。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
PTAは、学校や保護者を中心に構成され、児童・生徒の健全育成のための様々な活動を行っていることから、行政としてその活動を支援することは有効な手段である。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
関連する事業や類似事業はない。 24年度に補助金の見直しを行い、小学校PTA協議会への補助金を段階的に引き下げることで、経費の削減を図った。 なお、受益者負担を求める類の事業ではない。				
(4)現状と課題	小学校PTA協議会及び中学校PTA連合会は自己研さんを目的として、年1回ずつ研修大会を実施しているが、単位PTAやブロックを単位としての研修を実施する機会が少ないことから、団体の資質向上のため、引き続き推進を図っていく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	PTA活動は社会教育活動、健全育成活動として極めて意義のあるものであるため、引き続き小学校PTA協議会及び中学校PTA連合会と連携し事業を継続していく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	様々な教育課題に取り組むにあたって、PTAとの協力は不可欠であり、また団体育成の観点からも引き続き、活動支援を継続していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	少年少女合唱団事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6311
予算書名称	少年少女合唱団活動経費		執行実績報告書ページ	190

1 事業の概要

社会教育法第5条に基づき、子どもたちの豊かな情操と自主性、社会性の向上を目指して昭和60年6月に結成。以後、通常練習と定期演奏会の他、墨田区内を中心に演奏活動を行っている。	事業開始年度	昭和60年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住・在学の小学3年生から高校3年生までの児童・生徒	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
プロの指揮者・音楽家の適切な指導のもと練習を行い、定期演奏会の開催や各種の演奏会・ボランティア演奏などに出演するほか、他の合唱団や交響楽団などの演奏会での共演	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
児童・生徒が豊かな情操を養い、自主性や協調性を身に付け、将来的に音楽都市すみだの文化的まちづくりに寄与する人材へと育つ	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	練習回数	回	目標値	55	55	55
			実績値	55	55	55
成果指標 (目的に対する指標)	団員数(在籍している児童・生徒数)	人	目標値	90	90	90
			実績値	82	80	85
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
クラブ活動等の影響もあり、団員数は横ばいだが、例年熱心に取り組む団員が増えている。団員の歌唱技術が上がり、30周年記念演奏会(第31回定期演奏会)は前回以上に盛況で、満席となった。出演依頼数が増えており、区民への発表の場も充実している。また、卒団者による合唱団の活動も盛んで、将来の墨田の音楽文化を担う人材が育ってきている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円)*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	4,780	27年度 歳出決算額	4,675	27年度 執行率	97.8%	28年度 歳出 予算額	
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	有	有		4,582	
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	団員費1人12千円(減免あり)			収入額	556
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>本事業は、合唱を通じて子どもたちの情操を養うと共に、集団の中で人間関係を育む等教育の場となっている。また、現在、子どもの多様な活動の場が求められており、家庭の経済事情に関係なく幅広い年齢の子どもたちを対象にした本事業は、必要性があると判断できる。</p> <p>事業を休止した場合、将来的に「音楽都市すみだ」の文化的まちづくりに寄与する人材の減少が危惧される。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>団員数は横ばいであり、今後も同程度の人数の参加が想定される。平成24年度の練習会場の固定化以降、活動に熱心に取り組む団員が増えて歌唱技術が上がっているほか、練習を通じて集団活動をすることで個々の団員の成長が伺える。また、本年度の演奏会においては会場が満席になったことから、区民の音楽への興味関心を喚起する効果がみられる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>事業の性質上、他事業との統合はできない。</p> <p>事業経費は、合唱団の活動の幅が広がっている中、学校施設の利用等によりコストを抑えることで一定を維持している。受益者負担については、参加費を徴収しているほか、練習などの定例活動をはじめ、それ以外の活動についても保護者から多くの協力を得ている。これらのことから、効率的な運営であると判断できる。</p>				
(4)現状と課題	<p>区外からも公演についての問合せがあることもあり、知名度が上がっている。団員数の維持・増員を目指し、対象児童・生徒への周知の工夫するなどする必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	音楽都市すみだの理念に基づく音楽文化の振興と子どもたちの異学年交流、集団活動等を通じた健全育成の両面を併せ持つ事業として、有効な事業である。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>合唱を通じて子どもたちの情操を養うとともに、集団活動を行うことにより、自主性・社会性の向上を目指す本事業は、30年を超える歴史ある事業であり、団員数の維持・確保に努めつつ、今後も継続して実施していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 15

作成年月日: 平成28年6月22日

事務事業名	農山村生活体験事業		所管課・係	生涯学習課青少年担当
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	03-5608-6311
予算書名称	農山村生活体験事業費		執行実績報告書ページ	190

1 事業の概要

夏休み自然体験教室は、区立学校の給食に出す果物を高畠町から取り寄せたことが縁で交流が始まり、昭和61年度から実施をしている。平成元年度からは、都会生活体験教室として、高畠町立和田小学校の児童が修学旅行の一環として墨田区を訪れていたが、平成21年度からは高畠町役場の公募により参加者を募る「墨田ツアー」として実施されている。また、第3次墨田区生涯学習推進計画(墨田区まなびプラン)に基づき、平成24年度から自然体験教室事業として、新たにネイチャーワールド・キッズアドベンチャーを実施している。	事業開始年度	高:昭和61年度 ネ:平成24年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
夏休み自然体験教室:小学校5・6年生(区内在住・在学) ネイチャーワールドキッズ・キッズアドベンチャー:小学校4年生~中学3年生(区内在住・在学)	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
自然体験や集団行動	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
自然に対する興味や関心を深めるとともに、異学年同士の交流の輪が広がっている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	夏休み自然体験教室参加者数 (墨田ツアー参加者数:高畠 墨田)	人	目標値	30(30)	30(30)	30(30)
			実績値	29(32)	24(25)	27(36)
活動指標 (手段に対する指標)	ネイチャーワールド・キッズアドベンチャー参加者数	人	目標値	40	35	35
			実績値	40	34	35
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
参加者の感想は概ね良好であり、例年、一定の参加者がある。夏休み自然体験教室では、参加者が目標(定員)を下回っているが、応募者数はそれ以上にあり、墨田区児童・保護者と高畠町ホームステイ家庭との間で個別に交流が行われていることから、一定の成果が得られている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費
27年度 歳出予算額	1,565	27年度 歳出決算額	1,527	27年度 執行率	97.6%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>定員を上回るもしくは定員に近い応募があり、ニーズは高いと考えられる。今後もこの傾向は続くと考えられる。また、親元を離れ、異学年との交流も含めた集団生活の中で、自然体験を通して自然に対する興味や関心を深めることができる事業はほかにはない。事業を休止及び中止した場合、子どもたちにとって、機会が失われてしまうことになる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>定員を上回るもしくは定員に近い応募があり、今後もこの傾向は続くと考えられる。親元を離れ、集団生活をしながら、自然体験をすることになるため、事業の目的を達成するためには有効な手段であり、青少年の健全育成の観点からも評価できる。また、毎年、高畠町からも「墨田ツアー」として来訪があり、自治体間の交流が行われている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連する事業や類似する事業がないため、事業の統合はできない。事業経費については、大型バスの経費が上昇しており、増大している。事業内容の検討にあわせて、受益者負担についても検討する必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>高畠町の受入家庭(ホームステイ)の調整が年々と厳しくなっているほか、プログラム内容の充実等から受益者負担について適正な負担額を検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>都会に住む区内児童・生徒が自然豊かな農山村での生活体験やキャンプ体験(自然体験)を通じて得るものは多く、情操面での有意義な事業である。また、参加希望者も多く、ニーズが非常に高いことから引き続き継続することが妥当である。 なお、高畠町からの来訪も順調に行われており、自治体間交流としての意義も大きいものがある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>現状のまま継続していくが、適正な受益者負担については検討していく。</p>		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	教育相談事業		所管課・係	生涯学習課
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	すみだ生涯学習センター(5247-2001)
予算書名称	教育相談室経費		執行実績報告書ページ	167

1 事業の概要

すみだ生涯学習センター条例に基づき、センター開館(平成6年12月)に併せ、南部教育相談室(両国小学校内)と北部教育相談室(第三寺島小学校内)を統合し、センターA棟4階に教育相談室を設置した。	事業開始年度	平成6年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか	
教育上の課題(不登校・学習障害等)を抱えている区民(児童・生徒、保護者等)	に対して
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
臨床心理士など、専門の相談員によって、週1回・50分程度による教育相談(その他ヤングテレフォン相談・親子電話相談のほか、必要に応じ他機関との連携等)	を実施したことで
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか	
児童・生徒が学校や家庭において、安心して学習・生活することができる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	相談件数	件	目標値	200	200	200
			実績値	110	120	109
成果指標 (目的に対する指標)	終結率	%	目標値	37	37	37
			実績値	37	60	48

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

区内の全公立校にスクールカウンセラーが配置された影響からか、相談件数は若干減少傾向にある。相談の内容は極めて多岐に渡っているが、原因が親や家庭に起因する事案が多い。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	教育総務費	目	教育指導費	
27年度歳出予算額	22,335	27年度歳出決算額	21,815	27年度執行率	97.7%	28年度歳出予算額	26,522
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
不登校問題など、学校との連携を図るうえでも、教育上の施策として実施しており、行政関与の必要性はある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
教育上の問題はその現場である学校で直接的に解決するのが原則であるが、相談者の心理的ケアの側面から当相談室が対応しているため問題解決の即効性が薄い場合もある。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
相談期間を原則1年間としており、平成27年度は約半数の相談を終結させている。指導室等が所管する相談事業との役割分担については、今後検討していく必要がある。				
(4)現状と課題	教育相談室としての相談件数は減少傾向にあるものの、学務課より依頼される就学相談の心理検査等の件数は増加傾向にある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	児童・生徒及び保護者等の悩みや不安など、年々、複雑化する教育上の諸問題に関する相談に応ずる事業であり、一定のニーズもある。また、各種専門機関があるものの、セーフティネット的な(公的な)役割の一端を担っており、引き続き、実施する。
今後の方向性 (見直しの視点)	現在、指導室所管のスクールサポートセンターやスクールカウンセラーとの役割分担など、利用者にとってわかりづらい組織体制であり、今後、総合教育センター整備事業の検討などにあって、見直していく必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	平成27年決算特別委員会	
	要旨	生涯学習センター教育相談事業での他機関との連携について	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	科学教室事業		所管課・係	生涯学習課
施策	474	地域と家庭の教育力の向上を支援する	連絡先	すみだ生涯学習センター(5247-2001)
予算書名称	科学教室事業費		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

すみだ生涯学習センター開館後の平成7年度から、それまで指導室所管として実施していた「科学教育センター事業」を引き継ぐ形により、名称を「科学教室事業」に改め、21年にわたり実施してきた。理科の教員免許を持つ退職非常勤教員を専任講師とし、小学生は1年3期制(1期6回×3期)、中学生は計13回(通年)の実験・観察を主とした講座を開催した。	事業開始年度	平成7年度
	終了年度	平成27年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内小学生5,6年生、中学生1,2年生		に対して				
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
自然や環境問題などを学ぶことのできる実験や観察等		を実施したことで				
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
自ら科学を考える力が身についている		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	小学生・中学生の参加者	人	目標値	176	176	176
			実績値	153	153	159
成果指標 (目的に対する指標)	小学生・中学生の科学教室出席率	%	目標値	70	70	70
			実績値	54	56	61
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
土曜授業の開始(平成23年)以来、学校にて土曜授業がある場合は科学教室を欠席せざるをえないなど、昨今、出席率が低迷する(また、中学生の部にあっては、応募が定員割れすることもある)状況にあった。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習センター費	
27年度 歳出予算額	1,448	27年度 歳出決算額	1,320	27年度 執行率	91.2%	28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>身近な日常生活の事象などについて、科学的なものの見方や考え方を身につける機会として必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>子どもたちが学校教育以外で、科学的な興味や関心を持てるような学習の場として有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>都費負担非常勤教員を中心として、現役理科教員等のサポートを得て実施する中、受講料の徴収など、受益者負担は行っていない。</p>				
(4)現状と課題	<p>各学校により土曜授業の日程が異なることから指導者・児童生徒の出席調整が難しい中、都教委による非常勤教員の配置解消にあって、事業執行に関し、大きな課題があった。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	廃止	判定理由	<p>児童・生徒の理科離れが問題となる中、事業の必要性や有効性はあるものの、土曜授業の開始以来、出席率が低迷していたことや、都費負担非常勤教員の学校以外の配置は解消するとの都教育庁方針を受け、下記のとおり代替事業を展開することなどにより、当該事業を廃止することとしたものである。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>「子どもすみだ博士セミナー」(地域学セミナーの一環として実施)において、夏休み期間中、科学教室において実施していた講座を行ったり、平成25年度より開始した「親子で楽しむサイエンス教室」についても充実したりするなど、それぞれ科学教室を引き継ぐ形で今後、実施していくこととする。また、学校教育の中で、理科授業の充実を図っていく。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		